




学 位 論 文 審 査 の 要 旨

論 文 提 出 者	下 郷 恵		
論 文 審 査 委 員	(主 査)	渋谷 俊昭	
	(副 査)	土井 豊	
	(副 査)	田沼 順一	
論 文 題 目			
分岐部Ⅲ級骨欠損への bFGF と炭酸含有アパタイト多孔体複合体の応用			
<p><u>論文審査の要旨</u></p> <p>本論文では多孔性の炭酸含有アパタイト (CA) 顆粒を作製し、これを塩基性線維芽細胞増殖因子 (bFGF) の担体として用いた歯周組織再生の様相を観察している。さらにこの結果を基に、CA 多孔質顆粒と bFGF との組み合わせによる歯周組織再生の臨床的有用性について検討している。</p> <p>bFGF の担体として CA 多孔質顆粒を分岐部Ⅲ級骨欠損に応用すると、10 週後には FGF 群で約 70%の硬組織再生が認められ、アンキローシスも観察されず歯根膜様組織の形成も見られたこと、FGF 群はコントロール群と比べ有意に高い新生硬組織面積率を示し、組織学的所見で FGF 群は分岐部全体に新生骨が認められ、新生骨の骨梁は連続しており骨梁の幅も広がったことを示している。また、血管腔数はコントロール群や CA 群と比較して FGF 群で有意に増加していたが、FGF 群で見られなかったアンキローシスが CA 群では観察されたことも明らかにしている。以上の結果から、bFGF と CA 多孔体複合体は歯周組織再生に有効なサイトカインと担体の組み合わせであることが示されている。</p> <p>審査委員からは分岐部に作製した骨欠損の形態について、μ-CT による硬組織再生量の検討について、CA の破骨細胞性の吸収についての討議ならびに質疑がなされ、これに対して適切な回答がなされた。また、図表及び語句の表記など改善の指摘があり修正がなされた。</p> <p>審査委員は、本論文が CA を bFGF の足場材料とする歯周組織再生の臨床応用の可能性を示したと高く評価し、学位授与に値するものと判断した。</p>			